第６６号　２０１１年１０月２６日発行

都高Ｐ連会報

発行　：　東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会（都高Ｐ連）
編集　：　都高Ｐ連・調査広報委員会

事務局　：　〒167-0052　東京都杉並区南荻窪 4-29-10　田丸ビル 205 号
ＴＥＬ　：　03－5941－5067　　ＦＡＸ　：　03－5941－5068

平成23年度定期総会開催

国立オリンピック記念青少年センターにて

平成23年6月10日、国立オリンピック青少年記念センターにて平成23年度定期総会が行われました。

定足数98名のうち、出席66名、委任状17名、計83名で総会の成立が芝田副会長より宣言されました。

議事に先立って、高橋多佳子会長の挨拶に続き、来賓の八田和嗣様（東京都教育庁地域教育支援部　生涯学習課長）、都築功様（東京都立高等学校副校長会会長）より挨拶をいただきました。

議長団選出・記録者紹介後審議に入りました。

【第１号議案】
「平成22年度事業報告」は、可決されました。

【第２号議案】
「平成22年度会計報告」は、可決されました。

【第３号議案】
「会則改訂案」は賛成19票、反対43票、白票4票で否決されました。

【第４号議案】
「平成23年度事業計画案」は、可決されました。

【第５号議案】
「平成23年度予算案」は、可決されました。

昨年度は全国大会の成功という大きな成果もありましたが、全都の都立高校のうち加盟校は、ほぼ半数という現状は変わっていません。様々な理由で都高Ｐ連を抜けている学校へのアプローチや、全都会長会の内容の充実、スピーディーな情報発信など、より魅力を感じられる都高Ｐ連になるよう、今年度の活動に期待します。

平成 23 年度定期総会

都立富士高校、全国大会で事例発表！

８月25日、全国高等学校ＰＴＡ連合会大会北海道大会の第２分科会にて、都立高の代表として中部南地区から富士高等学校・富士高等学校附属中学校「父母と先生の会」の高野剛会長から、『学校主催キャリア講演会への「富士おやじの会」の講師派遣を通じた積極的協力』と題して、発表がなされた。（於：札幌コンベンションセンター）

昨年11月の高１の「奉仕の時間」に実施された、実際に様々な現場で働く「身近な12人のおやじたち」が仕事と社会とのつながりを自らの失敗談等を交えて子どもたちに語った講演会事例を紹介。限られた持ち時間ゆえ、やや恒例になったとも云える「学校紹介」を敢えて省き、テーマ本来に的を絞った適切かつ有意義な進行は、今後の発表校への指針となるだろう。講師を務めた「おやじたち」への事後インタビュー、校長からのメッセージビデオも字幕付きで流され、全国的にも「ＰＴＡならではの取り組み」として好事例の発表となり得たのではないか。

富士では今年のキャリア講演会も、10月22日の本番に向けて良い準備が出来つつあるとのこと。待望の女性講師たちの参加を含めて、更に良い「学校・生徒との共生関係」に期待したい。

発表する富士･高野会長（左端）

～　目次　～

P1　平成 23 年度定期総会
　　都立富士、全国大会出場
P2　第 33 回広報紙
　　コンクール審査結果
P3　第 61 回全高Ｐ連
　　北海道大会報告書
P4～P5
　　第 23 回東京地区大会
P6～P7
　　都高Ｐ連にようこそ！
　　【新加盟校】
　　王子総合高校
　　羽村高校
　　多摩高校
P8　スローガン、地図
　　今後のスケジュール

第３３回都高Ｐ連・広報紙コンクールの審査結果

平成２３年６月１１日(土)
国立オリンピック記念青少年センター　３１１号

平成23年6月11日（土）　国立オリンピック記念青少年センター３１１号にて、第33回広報紙コンクール表彰式が行われました。応募総数69校から、

- **東京都教育委員会賞　３校**
- **東京都公立高等学校長協会賞　３校**
- **東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会会長賞　３校**
- **東京都公立高等学校ＰＴＡ連合会特別賞　６校**

が選ばれました。

高橋多佳子都高Ｐ連会長挨拶に続き、各賞の受賞校が発表され、東京都教育庁地域教育支援生涯学習課長・八田和嗣様、東京都公立高等学校長協会　副会長・佐々木正文先生より講評を頂いた後、表彰状が授与されました。

受賞名	地区名	学校名	広報紙名称
東京都教育委員会賞	中部南	三鷹高等学校・中等教育学校	鷹校
	西部北	久留米総合	Ambitious アンビシャス
	西部北	国分寺	国分寺
東京都公立高等学校長協会賞	西部南	八王子東	志羅伽之　しらかし
	西部南	松が谷	やまざくら
	中部北	井草	井草
都高Ｐ連会長賞	東部北	日比谷	会報第１５４号
	西部南	農業	いなほ
	西部南	立川	立高ＰＴＡ会報
都高Ｐ連特別賞	中部北	武蔵丘	武陵　ぶりょう
	中部北	文京	むらさき
	中部北	北園	北園 kitazonot
	西部南	成瀬	けやき
	中部北	大泉高等学校・付属中学校	いずみの声
	西部北	小平	飛翔

東京都教育委員会賞の受賞校と講評は次の通りです。

○三鷹高等学校・中等教育学校

「知って得する進路情報」進路指導に関する特集記事で学校での取り組みや、受験勉強に関するアイディアを紹介し、保護者にとっても、関心の高い内容であった。

また、部活動マップ等わかりやすい情報提供、レイアウトの工夫や紙面のバランスが良く、生徒の様子が活き活きと伝わってくる広報紙であった。

○久留米総合高等学校

学校行事中心の紙面構成だったが、レイアウトの工夫が印象的、特に体育大会の様子が、写真と併せて臨場感あふれる文章で読みごたえのある記事になっている。紙面全体からＰＴＡの熱意が伝わってきた。

○国分寺高等学校

４ページにわたるアンケート記事が興味深く、生徒・保護者の関心のある内容でお互いの本音が垣間見える記事。

また、卒業をテーマに後輩から先輩へ、先生から卒業生へのメッセージが卒業生・保護者にとって思い出深い内容であった。

○全体的に・・・

いずれも、写真やレイアウトが工夫されていて、学校生活の様子がありありと浮かんでくる広報紙が多かった。

広報紙作成には苦労も多いと思うが、なかなかＰＴＡ活動に参加できない保護者にＰＴＡの重要さを伝えたり、ぜひ積極的な情報発信を今後も続けてほしい。

国分寺高等学校

久留米総合高等学校

三鷹高等学校・中等教育学校

第61回全国高等学校PTA連合会大会　北海道大会

「いのち　輝け！」　～人・夢・愛　ひたむきに頑張る君たちを応援したい～

平成23年8月24日～26日

平成23年8月24日～26日、第61回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会北海道大会が、北の街札幌にて開催されました。

■8月24日

東京からの参加者は、朝に羽田を出発するグループと夜出発のグループに分かれて札幌入りしました。

■8月25日

北海きたえーる、札幌コンベンションセンターにて全体会が行われました。

榊原綾子北海道大会実行委員長の開会宣言で大会が開幕し、笠浩史文部科学大臣政務官、高橋はるみ北海道知事、上田文雄札幌市長の祝辞の後、ＰＴＡ活動に尽力してきた方々の表彰式がありました。

東京からは、全国大会会長表彰団体として、昨年の全国大会で事例発表した、足立東高等学校、役員表彰で、高橋多佳子前都高Ｐ連会長と、山口明前全高Ｐ連理事、芝田直樹前全高Ｐ連理事がそれぞれ表彰されました。

また、昨年東京大会の成功に対して、大会実行委員長高橋多佳子前都高Ｐ連会長と南村和良現都高Ｐ連会長に特別感謝状が贈られました。

開会式の後、精神科医・立教大学教授の香山リカ氏による基調講演がありました。

昼食は、北海道の食材をふんだんに取り入れた大会弁当。どの全国大会でもお弁当には工夫を凝らしていますが、さすが北海道。どれも本当においしかったです。

昼食後は各会場に分かれての分科会です。

第1分科会
学校教育とＰＴＡ

第2分科会
進路指導とＰＴＡ

第3分科会
生徒指導とＰＴＡ

第4分科会
家庭教育とＰＴＡ

特別第1分科会
情報社会とＰＴＡ
～英雄のcodomoたち～

特別第2分科会
産業教育とＰＴＡ
～モノづくり・人づくり～

特別第3分科会
高校生と食
～いのち・食の未来を考える～

それぞれのテーマで、事例発表や基調講演・パネルディスカッションが行われ、東京からは、富士高等学校・附属中学校父母と先生の会会長高野剛氏が第2分科会で事例発表を行いました

■特別第2分科会

私は、特別第2分科会に参加しました。

北海道赤平市にある「植松電機」専務、植松努氏の「どーせ無理・・・だったらこうしてみたら」の講演と遠別農業高等学校、旭川工業高等学校の事例発表がありました。

また、新しい試みとして、札幌工業高等学校の生徒の指導による「ものづくり体験」がありました。

機械科
・鉄琴の製作

電気科
・ＣＤＳセンサーを利用したメロディーケース製作

建築科
・木製ストッカー製作

土木科
・建設重機の模型（ラジコン）操作
・測量体験

私は、「鉄琴の製作」体験をしました。短い時間で簡単に作れるようにするために、札幌工業高等学校の皆さんは、前日遅くまで準備したそうです。おかげで、参加者全員大満足の出来栄えでした。

■8月26日

前旭山動物園園長、小菅正夫氏の「命をつなぐ」をテーマに記念講演がありました。

閉会式では、開式の言葉に続いて、全高Ｐ連の義捐金に対し被災地を代表して宮城県連の正木氏より挨拶がありました。被災地の高校も復興に向けて頑張っているとのこと。でも、まだまだ支援は必要だと感じました。

榊原綾子北海道大会実行委員長より大会宣言の発表があり、会場から大きな支持を受けて採択されました。その後、全国高等学校ＰＴＡ連合会旗が北海道から次期開催地の和歌山へと渡り、和歌山大会実行委員長西原英男氏より和歌山のＰＲがありました。

北海道大会副実行委員長松本衆司氏による閉会の言葉で３日間にわたる北海道大会が閉幕しました。

田無工業高校ＰＴＡ
副会長　是川薫

第23回東京地区高等学校ＰＴＡ連合大会

『高校生と食育』～いのち、食の未来を考える～

講師　服部幸應氏

平成２３年７月９日（土）　星陵会館ホール

第23回東京地区高等学校ＰＴＡ連合会大会は、**『高校生と食育』～いのち、食の未来を考える～**というテーマで、『食育』の第一人者である服部幸應先生をお迎えし、お話を伺いました。講演内容を要約して紹介します。

食育には３つの柱がある

食育基本法は２００５年７月10日から施行され、もう６年になる。アンケート調査をしてみると、71・７％が食育という言葉を知っている、26・３％は内容も知っている、と言う結果になった。食育の具体的内容については、親子料理教室や農業体験という答えが99％になる。じつはこういうものを挙げていくと百も二百も出てきてしまうので、今日は、食育についての３つの柱を覚えて頂きたい。

まず１つ目の柱は、どんなものを食べたら安全か危険か健康になれるかという食品を選ぶ能力。これを選食能力と呼んでいる。２つ目は食の伝承。衣食住の中の特に食の伝承が食卓から消えた。家族で食事をしていても、その中身が以前とは違ってきている。３つ目は、食糧問題や環境問題だ。

家族を見直そう

震災後、３月20日に茨城県に炊き出しに行き、豚汁とおにぎりを配った。避難された方と話をしてみると、家族が１カ月ぶりに話をしたとか、久しぶりに家族が肩寄せ合って食事をし、子どもと話をした、という声をたくさん聞いた。私はこれまで、食育の法律まで作って共食を進めてきたが、被災をしたこんな時に、初めて食育の大切さに気付かれたことに大変ショックだった。しかし、これを機に日本も変わってくれれば良いと思う。

昔は、私の家にはちゃぶ台があって、家族みんなで食事をした。オヤジの席もあった。姿勢が悪いと注意され、はしの使い方が悪いと教えられ、ニンジンを残すなと怒られ、とてもうるさかった。家族が一緒に食事をすると自然に一般常識を覚える。これが一番大切なことなのだ。調べてみると、夕食をほとんど毎日一緒に食べている家庭は51％、週３～４回一緒に食べている家庭は23％。残りの家庭が１年に10日間ぐらいである。孤食といって、ほとんど一緒に食事をしない。

家族が一緒に食事をしていない国は滅びる。家族が仲良くなると、町が良くなり、町が良くなると、国が良くなる。すべては家族という単位が原点である。「家族を見直そう」。これが食育の大きなテーマである。

おふくろの味が人をつくる

１つ目の話に戻ろう。最近の食べ物は添加物やいろいろなものが入っていて、みんな同じ味。原材料は別なのに、みんな同じような工場製品が多い。だから、おふくろの味というものが非常に重要視されている。じつは、おふくろの味というのが一生この人の体まで含めて左右する。おふくろの味が人をつくるのだ。味がわかるのはいつからだろう。３歳から８歳の間である。

人間は８歳までに小脳が発達する。小脳は本能をつかさどる脳で動物脳だ。動物脳は、声をかけて育てることでうまく育つ。だから、小脳が発達する３歳から８歳は、食卓がとても大切になる。次の８歳～12歳で、一般常識を覚え、大脳につながっていく。うまく育っていないと、動物脳のまま大脳につながり、獣のような子どもになってしまう。

一緒に食べていても、テレビを見ながらだったりすると意味がない。家族で食べることで、一般常識を覚え、いいこと悪いことが判断できる人間脳になっていく。０歳～３歳までは、家族間のスキンシップが大切だ。この時期に、親子の信頼関係ができる。外国の保育園に行ってみると、０歳から預かっている国はない。２～３歳くらいから預かり、夕方４時くらいには、みんな家に帰って家族で食卓を囲む。まさに共食である。食育基本法は、食卓基本法だと思って頂きたい。大人になってからでは遅い。小さい頃の母親の育て方が非常に大切だ。

魚を与えるのではなく釣り方を教える

最近、子どもは年上や年下の友達と遊ばない。年上や年下と遊ばないと、力加減がわからない。格好は大人でも、精神的に子どものままである。しゃべり

服部幸應先生の講演

熱心に聞き入るＰＴＡ会員

プロフィール
服部幸應先生
（はっとり　ゆきお）
１９４５年東京生まれ。立教大学卒業。学校法人服部学園、服部栄養専門学校理事長・校長。医学博士。内閣府『食育推進会議』『食育推進基本計画検討会』委員など公職多数。

方や言葉使いに上下関係がなくなっている。友達は同級生ばかりで、友達と背中合わせになって、ゲームで遊んでいる。人と人とのコミュニケーションの取り方がへたになったと思う。

ライオンの親は、１人で赤ちゃんを産みに行く。１年後、２～３頭の赤ちゃんを連れて帰ってくる。そして、狩りを教える。匂いを探られないように、風下を教える。赤ちゃんライオンは風下からシマウマ目指して飛びかかる。しかし、蹴散らされて失敗。できるようになったら、群れから追い出される。生き方を教えてから追い出す。それは、親が餌を取られてしまうからだ。

１００匹の魚を与えるより、釣り針の使い方と釣り方を教える。これが家庭教育である。自分がどうやって生きたらいいかを教えるのは親だ。最近の親は、これを学校の役割と思っている人が多い。学校は釣り糸と釣り針の作り方を教える所である。家庭で最低限の一般常識を教えて、学校に上げて頂きたい。８歳までにちゃんとできていれば、中学・高校・大学になってもしっかりやっていける。

心配な日本の食糧自給率

中教審の答申では、食育をカリキュラムに入れることになった。今年から小学校、来年から中学校、高校は２年後からである。高校では１つ目のどんなものを食べたら安全か危険かを選ぶ選食能力、３つ目の環境問題、食糧問題について学習する。

食糧自給率は毎年８月15日の新聞に発表される。Ｈ21年の日本の食糧自給率はカロリーベースで40％。45年前、フランスのドゴール大統領が自給率１００％ない国は独立国とはいえないと言った。

それで周りの国が慌てた。英国は46％しかなかったのが、今は73％。ドイツが68％だったのが、今は82％。フランスが１０３％あったのを伸ばして今は１１０％。アメリカは１０５％あったのを伸ばして１３６％。各国そうやって努力したのに、日本だけは無視してきた。45年位前、日本は農業国だった。しかし、政府が国策として輸出産業に切り替えた。そのため、農業人口、漁業人口は十分の一になった。その平均年齢が65・３歳。コメ農家の１時間の時給は、平成17年で１７９円という驚くほどの安さである。だから、兼業農家になってしまう。日本の命をつなぐのは食糧である。世界各国は農業政策を国策としてとらえ、食糧自給率を上げてきている。外国は農家を政府が保障しているので、農家は自信を持って作物を作ることができる。

２年後の８月15日に今年の自給率が発表されるが、どうなっているか。たぶん震災の影響でガクンと落ちて、３割切ってしまうと思う。最近、外国は日本に食糧を売らないと言っている。日本は人口が減るが、外国はこれから人口が増える。世界の人口は69億７千万人。毎年８千万人増えている。

これまでは日本の食糧は品質が良いので、外国で買ってくれた。それが原発の風評被害のため、売れなくなった。日本の中で１番自給率のいい県は、北海道で２００％、東北も自給率が高く、１２０％～80％位である。その東北地方が地震で相当の被害にあった。これから本当に日本の食糧が大変になるだろう。

サスティナビリティの世紀へ

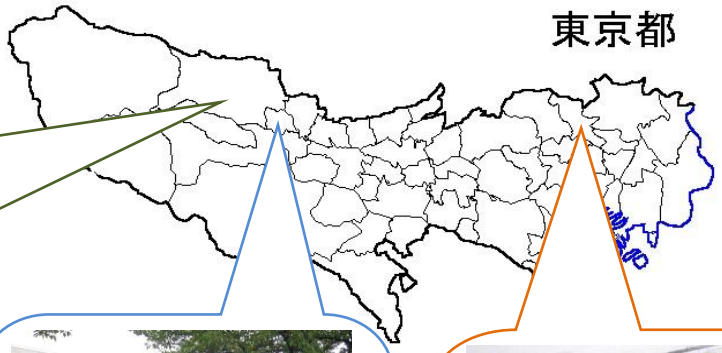
食育には３つの柱があるということをもう１度確認しておきたい。１つ目に、どんなものを食べたら安全か危険か、健康になれるか、これを選ぶ能力。２つ目が衣食住の伝承。３つ目目が、食糧問題と環境問題。そして、この３つを統一すると、どういうことが言えるだろうか。

20世紀は、科学のあらゆるものが生まれ、発達した。自動車や飛行機やジェットエンジン等々。あらゆる科学が発達したが、21世紀に入ってから環境問題のクローズアップとともに、資源浪費型技術への反省が随分出てきた。21世紀のキーワードは、『サスティナビリティ』(持続可能性)だ。高校生に、ぜひ教えて頂きたいのは、『サスティナビリティ』である。

これからはすべてのもの、車を作る場合も飛行機を作る場合も、料理の献立をたてるときにも、サスティナビリティが活かされていないとだめだ。地球を存続できるような設計がとても重要である。

都高P連にようこそ！【新加盟校】

都高Ｐ連に、王子総合高校、羽村高校、多摩高校の新しい仲間が加わりました。各校の校長とＰＴＡ会長に、学校の特色やＰＴＡ活動の概要、都高Ｐに加盟された経緯などを語っていただきましたので、ここに紹介します



多摩高等学校

羽村高等学校

王子総合高等学校イメージ図

【王子総合高等学校】 DESIN YOUR DREAM!

【学校の特色】

王子総合高等学校は、都立王子工業高校を発展的に改編し、新しいタイプの高等学校として設立された総合高校です。前身の王子工業高校は１９４１年に創立され「至誠・勤労・自立・明朗」の校訓のもと、１万１０００人を超える生徒が学び、２００９年３月をもって閉課程となりました。特色としては、１年次の総合の時間に「産業社会と人間」「人間と技術と環境」という他校にはない取り組みをしています。この授業は生徒にとても人気があるそうです。現在はまだ、手探り状態ではあるそうですが、生徒の将来像を模索し、実技主体の授業を行っています。

今澤秀夫校長

王子総合高等学校は都立の総合高校としては10校目、中部北地区では初の総合高校です。まだ1年生しかいませんが部活動も盛んです。校舎の工事中なので制限があり、近隣の体育館を借りて活動しています。校歌は私が作詞しました。プロの作詞家に作ってもらうと、こちらで勝手に修正できないものですから（笑）。歌詞に込めた思いは夢育て（ＤＥＳＩＮＥ ＹＯＵＲ ＤＲＥＡＭ）。生徒には王子総合でしっかり将来の夢を育んでほしいと思っています。

鳥海久美子ＰＴＡ会長

入学試験の合格書類の中に『ＰＴＡ準備委員会のお知らせ』が入っており、そこで校長のＰＴＡに対する意識を確認できたので準備委員会に参加しました。会長就任後に都高Ｐ連に加盟を決めたのは、ずばり数のメリット。大きな組織の必要性は感じていましたし、校長からも快い返事をいただけました。ＰＴＡ活動は総合高校の特色を活かし、年に１～２回のイベントを計画するプロジェクトや年次などの常置委員会のほか、バザーなどの特別委員会も設けています。

生徒数がまだ２４０名なので無理せず少しずつ活動を充実させていく予定です。

今澤校長、鳥海ＰＴＡ会長

【羽村高等学校】
地域から愛されている学校です！

【学校の特色】

羽村市で唯一存立する高校（普通科）ということもあり、地域住民の期待感は高く、公共施設の優先使用、近隣事業所のインターンシップ受け入れなど、地域からのさまざまな支援がある一方で、学校のほうでも奉仕活動や夏祭りへの参加協力で地域貢献を進めています。

卒業生のうち毎年40名程度は就職します。市内の事業所に就職を希望する生徒も多く、昨年の内定率は実に100％。これも日頃の地域連携の成果といえそうです。

部活動も活発で、とくに女子バレーボール部が東京都ベスト8、女子バスケット部がリーグ優勝という好成績を残しています。

柴田英男校長

地域がたいへん協力的です。たとえば、球技大会には市のスポーツセンターを2日間無料で貸してくれる、近隣の自動車学校が交通安全指導をしてくれるなど、普通ならあり得ないところまで配慮していただき、本当に感謝しています。本校の独自の取り組みとしては、学校案内用キャッチフレーズのコンテストがあります。作品を全校生徒から集め、その中で選んだひとつを採用するというものです。ちなみに今年のキャッチフレーズは『**羽高の 未来と希望の 可能性**』。生徒の自発性を大切にしたいですね。

富本照美ＰＴＡ会長

2年前、事務局問題で都高Ｐ連を脱会してからも、西部北地区の皆さんとは変わらぬお付き合いを続けてきました。前年度会長が、やはり都高Ｐ連に加盟していたほうがさまざまな情報が入りメリットがあると判断、校長と相談のうえ、再加盟することになりました。再加盟の決定を西部北地区長に伝えたところ、皆さんが『**お帰りなさい！**』という言葉で迎えてくれた。本当に嬉しかったです。今後は多くの皆さまとの情報交換や意見交換を通し、本校ＰＴＡの充実と発展に反映していければと考えています。

柴田校長（前列左）
富本ＰＴＡ会長（前列中央）

【多摩高等学校】
大自然を間近に健やかな教育環境！

【学校の特色】

今年で開校88年目。同窓生1万9000余名を誇り、戦前から社会に多くの逸材を輩出してきた伝統校です。

全日制普通科としては青梅市で唯一の高校で、地域との連携も厚く、夏祭りや環境フェスタ、青梅マラソンなど地域行事への参加協力を積極的に進めています。

近年はとくにキャリア教育に力を入れ、卒業生4割に達する就職希望者を社会に送り出しています。最大の特色は、奥多摩や秩父に連なる美しい自然を間近にした周辺環境です。

今年から大自然を満喫できる学校行事を導入しました。学校で植栽や野菜づくりを行う『自然総合部』というユニークな部活動もあります。

田中一彦校長

多摩高校は、西多摩地区では立川高校などと並ぶ古い歴史があります。現在はキャリア教育や学習指導に力を入れ、伝統校として再び注目を集められる学校になることをめざしています。また、都心にはない豊かな自然環境を活かそうと、今年から始めたのが『**奥多摩ウォーキング**』です。奥多摩町から青梅市の本校まで自然を楽しみながら歩くという企画なのですが、今年は初めてなので、学校周辺の山々を歩いてもらいました。ゴールした生徒の顔は満足感いっぱい。この学校で健やかに学んでいってほしいと思っています。

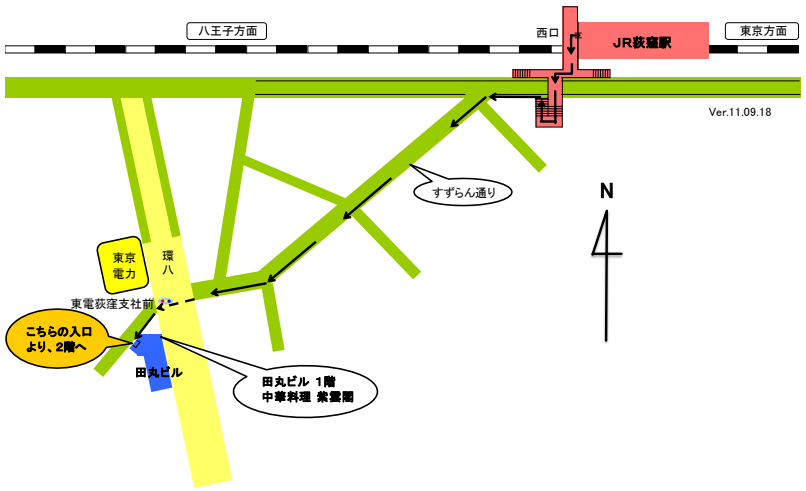
奥寺和雄ＰＴＡ会長

都高Ｐ連から脱会したのが3年前ということで、そのまま2年間が過ぎました。今年私がＰＴＡ会長に就任した際に、校長から他学校との情報交換の大切さをアドバイスされ、再加盟することにしました。その後、全国大会や全都会長会などの折に、他の学校のＰＴＡ役員と話をしていて、文化祭でのＰＴＡの関わり方や本部役員の選出の仕方など、たいへん役に立つ情報を得ることができました。今では再加盟して本当によかったと思っています。

田中校長（左から4人目）
奥寺ＰＴＡ会長（左から5人目）

平成２３年度都高Ｐ連スローガン

原点から見つめる子どもたちと私たち



都高Ｐ連までの案内図

今後のスケジュール

10/26(水)　第２回全都会長会
10/29(土)　中部北地区推奨行事
「カブキロックス特別講演会」
11/05(土)　東部北地区講演会
11/19(土)　中部南地区講演会
12/10(土)　リーダー研修
平成 24 年
01/11(水)　「ＧＡＴＥ」映画
01/28(土)　幼小中高合同研修

都高Ｐ連事務局メールアドレス
jimukyoku@tokoupren.org

新設！　都高Ｐ連ホームページ
URL　www.tokoupren.org

東日本大震災義援金ご協力のお礼

大震災直後より都高Ｐ連で募集しておりました義援金は７月末で８６万２５３３円となり、全高Ｐの義援金口座へ送金致しました。全高Ｐ連より被災５県の県連へ、皆様の義援金が直接届けられます。
心より感謝申し上げます。　現在も義援金は受け付けておりますので、ひき続きご協力の程よろしくお願いします。

●ゆうちょ銀行
●口 座 名：　東京都公立高等学校 PTA 連合会
●口座番号：　00100－8－631728
●他金融機関からの振込用口座　：　〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）　当座 0631728
●備　　考：　通信欄に「義援金」と記入してください。

AIUの高校生総合保障制度
（こども総合保険）
私共AIUは、日本で営業を開始して早や64年が経ちました。
学校・PTAを通じた保障制度にも25年以上ものあいだ積極的に取り組み、おかげさまで
全国22,000校以上(※)の学校・PTAにて学生総合保障制度をご採用いただいております。
（詳細は引受保険会社へお問い合せ下さい。）
社会貢献事業
「高校生国際交流プログラム」
(※)2009年度弊社加入データ調べ
〈引受保険会社〉
AIU保険 CHARTIS
首都圏第一営業本部
〒105-0004
東京都港区新橋5-11-3新橋住友ビル6F
TEL 03-5473-3601
午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）
http://www.aiu.co.jp

日本の保険は、ジャパンが変える。
損保ジャパン
株式会社 損害保険ジャパン
〒160-8338　東京都新宿区西新宿1-26-1　TEL. 03(3349)3111
ホームページアドレス　http://www.sompo-japan.co.jp